

Ⅲ. 農業農村整備事業の概要

Ⅰ. 沖縄21世紀ビジョンにおける位置付け

沖縄21世紀ビジョン <平成22年3月策定・基本構想(想定年2030年)>

(1)基本理念

21世紀に求められる人権尊重と共生の精神を基に“時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな「美ら島」おきなわ”を想像する。

(2)県民が望む将来の姿(目指すべき5つの将来像)

- 【将来像1】沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切に作る島
- 【将来像2】心豊かで、安全・安心に暮らせる島
- 【将来像3】希望と活力にあふれる豊かな島
- 【将来像4】世界に開かれた交流と共生の島
- 【将来像5】多様な能力を発揮し、未来を拓く島

(3)克服すべき沖縄の固有課題

- (1)大規模な基地返還とそれに伴う県土の再編
- (2)離島の新たな展開
- (3)海洋島しょ圏、沖縄を結ぶ交流ネットワークの構築
- (4)沖縄における地域主権と道州制のあり方

新・沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)(計画期間:令和4年度～令和13年度)

(1)目標

施策展開に当たっては、SDGsを取り入れ、社会・経済・環境の三つの側面が調和した「持続可能な沖縄の発展」と「誰一人取り残さない社会」を目指す。

ウィズコロナの新しい生活様式から感染症終息後におけるポストコロナのニューノーマル(新たな日常)にも適合する「安全・安心で幸福が実感できる島」を形成し、県民すべての幸福感を高め、併せて我が国の持続可能な発展に貢献することを目指す。

「沖縄21世紀ビジョン」に掲げる5つの将来像の実現と4つの固有課題の解決を図り、本県の自立的発展と県民一人ひとりが豊かさを実感できる社会の実現を目標とする。

(2)施策展開の基本方向

- 平和で生き生きと暮らせる「誰一人取り残すことのない優しい社会」の形成
- 世界とつながり、時代を切り開く「強くしなやかな自立型経済」の構築
- 人々を惹きつけ、ソフトパワーを具現化する「持続可能な海洋島しょ圏」の形成

新・沖縄21世紀ビジョン実施計画(計画期間:令和4年度～令和13年度※3年、3年、4年ごとに策定)

分野別:新・沖縄21世紀農林水産業振興計画 <計画期間(令和4年度～令和13年度)>

分野別:沖縄県農業農村整備長期計画 <計画期間(令和4年度～令和13年度)>

新・沖縄21世紀農林水産業振興計画の目標と農業農村整備事業の役割

(目標)

生産の拡大、生産・流通コストの低減、多様な担い手の育成・確保、デジタルトランスフォーメーションの推進などの徹底したおきなわブランドづくりの推進、リーディング産業である観光産業等との積極的な連携、6次産業化の推進などのマーケットインを意識した出口戦略の強化等を通じ、地域経済の活性化や農林漁業者の所得向上など、魅力と活力ある持続可能な農林水産業を実現する。

【7つの柱を基本に目標達成に向けた施策・事業を推進】

- ①おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化
- ②県産農林水産物の安全・安定供給と消費者信頼の確保
- ③多様なニーズに対応するフードバリューチェーンの強化

④担い手の育成確保と経営力強化

- 担い手の育成・確保
- 担い手への農地の集積・集約化の促進

- ⑤農林水産業のイノベーション創出及び技術開発の推進

⑥成長産業化の土台となる農林水産業の基盤整備

- 生産性と収益性を高める農業生産基盤の整備
- 農山漁村地域の強靱化対策の推進

⑦魅力と活力ある農山漁村地域の振興と脱炭素社会への貢献

- 環境に配慮した持続可能な農林水産業の推進
- 地域資源の活用・域内循環の創出による地域の活性化
- 地域が有する多面的機能の維持・発揮

農業農村整備事業の役割

II 沖縄県の農業の概要

IV管内図（事業地区位置図）

参考：農村の持つ多面的機能と農業生産・生活の整備

